

3年生の中学校生活は、入学から現在まで新型コロナウイルスとともにあります。with coronaと言われる日常の中で、できることを最大限に取り入れた修学旅行でした。

目的地とした北陸3県は、地場産業や歴史文化、そして豊かな自然に恵まれた学びの宝庫であり、よのなか科の中心概念「SDGs」とも関連して、多種多様な学びが得られる場所です。事前・事後学習においても、生徒が各自で探究テーマを設定し、検証していくにあたって十分すぎるほどの材料があります。

今回の修学旅行のスローガンは、実行委員会で「Think Feel Enjoy ～以心伝心～」と決めました。「一人ひとりが考え、豊かな感性で感じ取り、最後の集団生活を楽しむこと」、そして「人と歴史が伝える心を感じ取って学びの多い修学旅行にする」という決意を表したものです。これまでの中学校生活の集大成という意識の中で、自分たちの行動を律しながら、互いの信頼の上に修学旅行を成功させようとする意欲が随所に感じられる3日間でした。この修学旅行では、生徒の希望により選択する活動を2つ取り入れました。一日目の「富山ガラス工房」でのサンドブラスト体験と鋳物メーカー「能作」での箸置き製作体験の選択、二日目の科学・進化コース(恐竜博物館)見学と歴史・文化コース(一乗谷朝倉氏遺跡、丸岡城)見学の選択です。これも、各自の興味や関心を満たす、個別多様な学習の機会でした。

三日間の行程の中で特に印象的だったのは、二日目の永平寺での座禅体験と昼食です。永平寺は厳しい修行の場として知られています。張り詰めた空気の中での座禅体験は自分と向き合う貴重な時間となりました。また、厳しい食事の作法を守りながらいただいた精進料理は一生の思い出になるでしょう。訪れる場所ごとに、その場の光や音、においや味などすべての感覚を使って学んだ3日間で、スローガン「Think Feel Enjoy ～以心伝心～」は立派に達成されました。

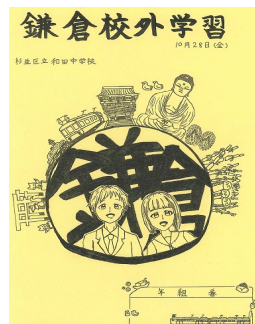


見つめる視線の先に  
何がみえるのだろうか

様々な行事と同時に、10月3日から、全校で教育相談(WADAMEN)を実施しています。生徒が面談する先生を選びます。その中で、3年生に修学旅行の思い出を質問すると、「楽しかった」「北陸に行けて良かった」という答えが返ってきました。中でも印象的だった場所として「東尋坊」を上げる生徒がほとんどでした。「あの景色は半端ない！」と。宿舎での「レク」も思い出深かったようです。3年前の6月に入学式をしてから、あっという間に和田中生活もあと5ヶ月になりました。受験本番も迫ってきています。頑張れ3年生。応援しています。

### 校外学習って何のためにやるのだろう…

2年生は、今週28日金曜日に迫った鎌倉校外学習に向けての準備が進められています。スローガンは「コミュコミュしながらみんな輪へ」その意味は？楽しみながら自分達らしく1日を過ごして来てくれることと思います。



1年生は、今週から校外学習に向けての取組が始まりました。「和田地域とSDGs」をテーマに12月2日(金)に校外学習を実施します。中学生ならではの視点で「地域を深掘りする」学習です。

2年生も1年生も修学旅行は「北陸方面」で実施します。3年生を超える学習になるように、それぞれの学年独自の取組を交えながら、校外学習に臨みます。

「知らなかった」ことから一歩、また一歩新しい知識と出会い、深い学びにつなげていきましょう。



# 自主貢献

## 北陸 修学旅行

「知らなかった」ことに気づく旅

校長 村山 忠久

今年度から3年生の修学旅行は北陸方面となりましたので、その様子などをご紹介します。本校では9月14日から16日に実施し天候にも恵まれました。コロナ対策を施しながらの実施でしたが、無事終わることができました。ご家庭でも健康管理に留意して下さったことに感謝申し上げます。

1日目は時間通りに東京駅に全員が集合し、富山駅で新幹線を下車してバスに乗り込み、富山の源ますのすしミュージアムで昼食をとりました。ここでは「作る人、働く人、関わる人が幸せになる、富山の魅力がたくさん詰まった商品をつくる」ことが理念です。地産地消を意識しています。まさにSDGsです。

その後、富山県立イタイタイ病資料館を見学しました。移動中のバスの車窓からは広大な水田の風景が広がります。ただの水田ではありません。多くの人の苦悩と闘いの末に復活した水田なのだとやがて気づかされます。

資料館に入るとすぐに職員の方から「足元を見てください」と言われ、解説が始まりました。見てみると3m四方くらいの地図になっています。神岡鉱山からのカドミウムが神通川を流れ、被害がどこまで及んだのか詳しく説明がありました。語り部さんからはイタイタイ病の症状、苦しさの話、「覚悟をかけた闘い」であった裁判の話、勝訴後の3つの約束事(被害者への救済、公害防止、汚染土壌の復元)の締結の話などがありました。「田んぼ、土壌、川の水はよみがえったが、人の命はよみがえらない」という言葉は胸に突き刺さりました。神岡鉱山では「下流に命あり」が企業倫理となっているとのことで、水質検査を今も3時間おきに行っているそうです。バスから見た水田はこのような歴史があったのです。

資料館の後は、富山ガラス工房と能作(錫の箸置きを作成)での体験をしました。

金沢市のホテルに着いてからは夜になりますが尾山神社、金沢城公園の散策です。生徒はとてもわくわくしており楽しそうでした。ここを見学すると尾山神社にはなぜステンドグラスが鳥居にあるのか気になります。金沢城公園の大きさに驚き、加賀100万石の前田氏のことが知りたくなります。さらには徳川家と前田家のつながりについて等、気になることが増えました。徳川家側からの視点だけではなく前田家側からの視点での歴史が気になりはじめました。私にとっても疑問がわく場所でした。

2日目の午前中は永平寺です。ここに向かう途中、見渡す限りの水田を見て「下流に命あり」の話がよぎりました。永平寺につくと、入る前からその周囲の歴史の重みや冬の自然の厳しさを想起させる荘厳な空気に身が引き締まります。坐禅を15分体験しましたが雑念をすてることで短く感じました。修行僧からの説明を受けながら境内を見学した際も、この日は30度くらいの気温でしたが、生徒たちは真剣に聞いていました。昼食は精進料理です。「いただきます」の意味、いただく際の食器の持ち方などの作法を教えてくださいました。生命に対する畏敬の念を説話のなかに強く感じました。命は対等であるからいただく際には食器を口元まで運ぶ。食器を置く時も両手で置く。背筋は伸ばし足の裏はかかともしっかりと床につける。このような作法で料理をいただきました。片付け方にも作法がありました。生命に対する畏敬の念は昔から引き継がれ、未来においてもかわることのない普遍的なことであることは言うまでもありません。強く自覚をすることができたことは非常によい経験だと思います。





## 歴史文化 科学進化 北陸の魅力は想像以上

その後、2グループに分かれ、歴史文化コースは福井県の一乗谷朝倉氏遺跡、丸岡城を見学し、科学進化コースは福井県立恐竜博物館を見学し、東尋坊で合流しました。

一乗谷朝倉氏遺跡は歴史の教科書に載っています。国の特別史跡です。戦国大名の朝倉氏は福井県の一乗谷(いちじょうだに)に城下町を築きました。応仁の乱での活躍をきっかけに本拠地をここに移し、およそ1万人が暮らしていたといわれています。文化人も多かったようです。遺跡出土品のうち2343点が重要文化財指定です。疑問がわきました。当時、一乗谷の人々は京都の文化を金沢へ伝えたのだろうか。きっと伝えたのだろうか、逆はあるのだろうか。友禅など似ている文化があるが、比較するとその違いが分かるかもしれない。国内の金箔のシェアの99%が石川県だという。だとすれば京都の金閣の金箔は石川県産か。地図を見るとどうしてもここを通るように思える。果たしてどうなのか。このような疑問がわいてきました。

この遺跡は復元もあり、自然も豊かなので、時空を超えた感覚になります。当時のことをイメージしやすく疑問や好奇心が駆り立てられる場所です。この感覚は何か所も寺社めぐりをしてあまり味わえないような気がしました。この城下町を滅ぼしたのは織田信長だと聞いて、歴史を今までとは違う視点から見るのができたと思います。学びが深まるという見学場所だとも言えるでしょう。



国語の授業で作成した生徒作品



丸岡城は織田信長の命により柴田勝家が甥の勝豊に築かせた城です。現存十二天守のうちの一つで国の重要文化財です。実際に天守に登り、そこに広がる風景は当時の眺めをイメージすることができるほどでした。私が考えていた以上に生徒は印象深かったようです。

自然科学コースでは福井県立恐竜博物館を見学しました。あまりの大きさ、迫りに驚きがあったり好奇心が駆り立てられたりしました。なぜ、福井県に恐竜博物館があるのか。恐竜が絶滅したのはなぜか。素朴な疑問がわいてくる場所です。



丸岡城や東尋坊に行って見て感じたことは、大人が考えている以上に、子どもが興味を示したり感動したりするものがあるということです。東尋坊は多くの生徒にとってインパクトがあったようです。「子どもにとってどうなのか」は本校の理念ですが、再認識しました。

国語の授業で作成した生徒作品



国語の授業で作成した生徒作品



2日目は福井県あわら温泉のホテルに宿泊しましたが、夕食では、「ご飯がおいしい」と評判でした。昨日の「下流に命あり」を思い出したり、きれいな水だからこそおいしい食材をいただける、と食事をしながら多くの人のかわりや感謝の気持ちを感じたことでしょう。

生徒の修学旅行の係の中に、レク係があります。レク係が主体的に企画運営したレクリエーションを1時間行いました。実はこのレクが一番楽しかったという声も多くありました。



3日目は金沢市内班行動を行いました。金沢は加賀百万石の城下町として発展し、その藩政の時代の文化を残しています。東京では、江戸時代の情緒を感じる場所はありませんが、多くはありません。金沢で茶屋街や武家屋敷界隈を見学すると当時の様子を思い描いたりできますので、行く価値はあると思います。ほとんどの班が見学場所にひがし茶屋街を入れていました。



国語の授業で作成した生徒作品

3日間を通して、生徒は修学旅行に行ける喜びをかみしめ、集団行動を意識し、時間を守って行動しました。日ごとに生徒の表情が豊かになっていくのを感じました。友情と学びを深めた思い出に残る修学旅行となったに違いありません。この修学旅行に備えて、一人一人がテーマを決め「北陸3県のここがすごい!」としてまとめ、学年だよりに掲載するなど事前学習を丁寧に行ってきました。生徒一人一人、興味関心が異なります。今回の修学旅行は伝統文化だけにとどまらない、見学場所を設定しています。例えば、今は加賀藩の前田氏に興味をもった生徒が将来、恐竜や東尋坊の柱状節理に興味をもったり、命をささえる水に興味をもったり、公害や医療に興味をもつということがあるかもしれません。北陸新幹線や金沢駅の斬新な駅舎を見たことでその経験が将来、そのデザインや建築などを思い出し何かのヒントになるかもしれません。どこかでこの経験が将来つながっていくかもしれないのです。まずは今、興味をもったことを生徒は事後学習としてまとめています。

10月21日号の3年学年だより掲載の作文の一部を紹介します。修学旅行中、バスガイドさんが太平洋戦争中に富山大空襲で富山県の市街地の99.5%が焼き尽くされたとの話をされていました。その話を聞いてoさんは次のように書いています。

「自分は日本の太平洋戦争の被害は、東京大空襲、広島、長崎の原爆、沖縄戦など、歴史の授業で学習したものしか注目していないということがわかって『はっ』としました。今回、富山の被害については、バスガイドさんの話から知ることができたけど、そのほかにも大きな被害を受けた地方があるならば、そのことについて調べてみないといけないと感じました。」

恐竜が生存していたのはおよそ2億年～6600万年前、東尋坊の岸壁の柱状節理が形成されたのは1300～1200万年前といわれています。そんな気が遠くなるようなはるか昔から、戦国時代、江戸時代、イタイイタイ病の時代を経て、現在があります。この修学旅行ではそういった過去に少しですが触れることができました。そして「しあわせな未来」へつなげるためにできることは何か考え、行動することがこれからは必要となっていきます。SDGsの17の目標のうち関係があったものはいくつでしょうか。ぜひ考えてみてください。

3年生の総合的な学習「よのなか科」では事後学習を行っています。国語の授業では「説得力のある表現、効果的な表現を工夫し、伝えたいことを端的に表す」ことをめあてとし「写真を基に修学旅行を振り返り、伝えたいことをまとめるとともに、表現を工夫してキャッチコピーを考えた」作品を作成しました。「現地撮影した写真が素晴らしい」と担当の岡本匡史先生も絶賛!



国語の授業で作成した生徒作品